

南陽市自分ごと化会議

第3回会議 議事概要

日時	2023年9月17日（日）13時30分～16時30分
場所	赤湯公民館 1階大会議室
コーディネーター	神奈川県逗子市 福祉部長 石井 聡
ナビゲーター	神奈川県横須賀市 教育総務部長 古谷 久乃

第3回会議の振り返り

➤ 横須賀市の事例

- ・地域住民との合意形成は図れたか。
- ・横須賀市独自の学校規模の定義。
- ・耐用年数：80年を上限に。
- ・国基準の通学距離：小学校4km, 中学校6km
- ・学校施設は地域活動の場でもある。
- ・地域別協議会は地域の方、保護者、教員（校長）から構成される。
- ・部活の地域移行の難しさ
- ・「自分たちの学校は自分たちでやっていく」

◇ナビゲーターからの意見：学校ではいろんな規模の活動ができる環境を整えることが重要。

➤ 学校生活に関すること

- ・自分の興味を究められるような体験をさせてあげたい。
- ・イベント、課外活動の情報がほしい。
- ・地域の達人が教える機会があればいい。（米作り、そば打ち、果樹栽培・・・）
- ・中学生がみんなで話したり、勉強したりできるスペースがほしかった。
- ・心の相談ができる機会、場を増やす。
- ・ボランティア（学校見守りサポーター）の活用。

➤ 学校の運営に関すること

- ・住民発意を基本とし、地域の実情に合った形で統合を進める。
- ・クラス替えができる規模に中学校を再編。（平成21年）
- ・国の基準は35人で1クラス。山形県は33人で1クラスと定めている。（今後は県も35人にシフト）
- ・保護者の職業について聞く機会。
- ・子どもから地域への発信も重要。

➤ その他意見

- ・中高生が勉強できるスペースの提供。
- ・小さい子ども向けの施設や学童保育は充実している。中学校では部活がその役割を担っている？
- ・施設が偏在している。
- ・中学生同士で勉強ができる場所を企業が提供している事例。※勉強以外のこともできる。
- ・当事者である中学生の声を聞く機会がない。
- ・市について考える機会を増やすことで人材流出を防ぐ。